

2 学校経営方針

(1) 学校経営の理念

子どもたちが将来生きる2030年以降の社会は、「ソサエティ5.0」と呼ばれる超情報化社会で、知識基盤社会、情報化やグローバル化が予測を超えて加速度的に変化していくと言われている。

複雑で、予測困難な社会において、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、異なる背景を持つ他者と協力し合って課題を解決しながら(重要)、その過程を通して、自らの可能性を發揮し、幸福な人生を創っていくために必要な資質・能力を、小学校の教育課程を通して育成したい。国民一人一人が主権者としてよりよい社会創りに参画する社会、特に、生まれ育った地域の豊かで幸福な発展に積極的に関わる主権者の育成をめざし、学校経営を推進する。

- 基本理念 『「生きる力」の育成』 『学校の主人公は子どもである。』

子どもがいて、学校がある。学校は子どもの幸せのためにある。
学校は、子どもの幸せを実現する場である。

今、現在の幸せ = 「笑顔で登校」「満足の下校」

「今、現在の幸福」として、児童一人一人が、先生や友だちとの学習活動や学校生活が楽しいと感じ、朝、目覚めると、「早く先生や友だちに会いたい」「早く、教室へ行きたい」と思い、「笑顔で登校」する。学級に居場所があり、仲のよい友だちがいる。一人残らず授業に参加でき、授業がよくわかり、学んだことができるようになる。「今日も賢くなった。」「今日も成長した。」と実感し、「満足の下校」をする。

将来・未来の幸せ = 「夢実現」への道 教師は、子どもの夢の伴走者

自分や地域社会の将来に、夢や希望がある。児童一人一人が、ゆるぎない自己肯定感や自己有用感を持っている。夢に近づく方法がわかり、自律して、今やるべきことを実践できている。

めざす児童像

川崎っ子は、よい子です。

- 川崎っ子は、基礎的・基本的知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習する態度を身に付けた、歌声いっぱい、読書いっぱいの賢いよい子です。
- 川崎っ子は、元気よく返事・あいさつをし、自らを律して礼儀を正し、思いやりをもって他者と協調し合う、心豊かなよい子です。
- 川崎っ子は、基本的な生活習慣や安全な行動様式を身に付け、感謝の心で食事をし、運動やスポーツに親しむ、健やかなよい子です。

川崎っ子は、賢く、心豊かで、健やかな、よい子です。

自分大好き 友だち大好き 先生大好き 学校大好き 地域大好きな川崎っ子

- 行動理念 「時を守り、場を清め、礼を正す」
「川崎小学校の児童、職員は、ひと、もの、ことばを大切にします」
- 教師の生命は授業実践である。質の高い授業で児童一人一人に「生きる力」を確実に育む。

めざす教師像

教育公務員として、当たり前のことを当たり前通りに、誠心誠意実践する教師集団
「啐啄同時」、「和顔愛護」(中頭教育)、「率先垂範」(中頭教育)、「師弟同行」
私たち「チーム川崎」の職員は、授業と学級経営で勝負します。
(教師の生命線は「教材研究」と「授業研究」である。)

子どもが好き、教えることが好き、子どものよさを見つけ、よさを伸ばす努力をし続ける教師

- 児童一人一人の思いや願いを大切にし、よさを認め伸ばす教師
- 児童の生命・健康・安全を第一に、十分な目配り、気配りができる教師
- 自分の考えを持ちつつ、チームで課題解決に向けて取り組む教師
- 教育への情熱と使命感をもち、学び続ける教師
- 教育公務員としての自己管理、服務、勤務の厳正に努める教師

めざす学校像

- 児童にとって、安全で、心安らかな居場所があり、安心して学ぶことのできる学校
- 児童の学びと成長を保障する学校
- 児童の感性を育む教育環境の整った、うるおいのある学校
- 全校体制で課題解決に向けた取り組みを行う組織力の高い学校
- 保護者、地域と協働し、教育効果の最大化をめざす学校

花いっぱい、笑顔いっぱい、元気いっぱい子どもが活動し、保護者・地域から信頼される学校

- 学校教育は、保護者、地域からの信頼なくして成り立たない。

開かれた学校＝保護者、地域とともに子どもを育てる学校。 **学校・家庭・地域の「優しいつながり」**

教育は人であり、学校は組織体である。互いに信頼し合い、協働の和のもと、真の愛情を持って率先垂範してこそ、生き生きとした学校教育が展開される。児童を育てる仕事は社会からの信託であり、学校は教育の結果に責任をもたなければならない。そのような使命感と誇りを持ったプロの教師集団こそが、保護者・地域の信頼を得ると考える。(家庭でしつけ、学校で教え、地域で育てる。)

また、学校の判断基準は、常に「児童にとってどうか」である。児童にとって、よりよい環境で、よりよい教育を提供するのが学校であり、児童一人一人が大切にされ、児童一人一人が生かされなければならない。児童のよりよい成長にとって本当に必要なことが何かを考え、教師が一丸となって全力を尽くして取り組む学校でありたい。

(2) 教育目標

人間尊重の精神を基盤とし、変化の激しい「ソサエティ5.0」をたくましく生き抜くための豊かな人間性と、心身ともに健康で、今よりも、さらによりよい社会を築いていくための実践力を身に付けた児童の育成を目指す。

教育目標

- よく考え進んで学ぶ子 (知)
- 心豊かで思いやる子 (徳)
- 健やかでがんばる子 (体)

学校の教育活動は、すべて教育目標の達成のためにある。職員は、三つの教育目標を常に念頭において全教育活動を進める。そして、すべての児童が教育目標を学校生活のめあてとして自覚し、行動する。

(3) 本年度の学校経営の重点

- ① 学校経営の基本方針
 - 主体的、対話的で深い学びを通して、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等を身に付けさせるとともに、主体的に学習する態度を育む教育活動を展開する。
 - 目の前の児童や家庭、地域の実態を的確に捉え、教育課題を明確にし課題解決に向けた取組を推進する。
 - キャリア教育の視点をふまえ、児童が自分の将来に夢や希望を持ち、その実現に向かって今やるべきことを自ら考え、自ら学び、自ら成長し続ける力を付ける。
 - 「はじめに子どもありき」を全ての教育の基本とし、「この子のためにどうすることがいいのか」「子ども

もにとって真に有益であるのか否か」を全ての場での判断基準とする。

- 「安心・安全」は全ての教育活動の根幹、大前提であるという認識を持つ。
- 全職員による「R-PDCAサイクル(学校評価、教職員評価システム)」を有効に活用し、挑戦(チャレンジ)、変革(チェンジ)を意識した教育活動を推進し、すべての教育活動の質の向上を目指す。
- 保護者、地域の願いや思いを敏感に捉え、情報発信に努めるとともに、説明責任、結果責任を果たす学校を目指す。
- 互いに信頼し、協力し合い、一人一人が持てる能力を發揮し、教育目標の実現をめざす職員集団

② 本年度の重点課題

教育活動の質の向上による信頼される学校づくり

- 「生徒指導の三機能」が生かされた「わかる授業」「参加する授業」による「確かな学力」の育成
- 主体的、対話的で深い学びによる「確かな学力」の向上
- 「川崎小学校の職員、児童は、ひと、もの、ことばを大切にします。」理念の具現。
- 「時を守り、場を清め、礼を正す」理念の具現化による豊かな心の育成
- 自己指導力の育成による学習意欲・活動意欲の向上
- 組織的、機動的な学校運営体制の構築(専門部会の機能化)
- 学校運営協議会(市民協働学校)の充実

③ 具体的な手立て

よく考え進んで学ぶ子(知)

学年・学級経営

- ① 児童の実態や発達の段階を踏まえ、教育目標の具現化を目指す。そのために、学年に応じた学年経営目標、さらにそれを踏まえた学級経営目標を設定し、実践、評価、改善に努める。
- ② 学年の協働体制のもと学年会を計画的に実施し、教育活動の綿密な計画を立てるとともに、一致協力して学年経営、教科経営に当たる。

学習指導の充実

- ① 現行学習指導要領に即するとともに次期指導要領の完全実施も見据え、地域や児童の実態を踏まえた年間指導計画を作成する。改善点、反省点は朱書きして柔軟に対応する。
- ② 全国学力・学習状況調査、沖縄県到達度調査等の結果を分析し、授業改善を推進する。
- ③ 2週間単位の週案を作成して指導記録を残し、指導記録等を生かして評価、改善を図る。

学びを保障する授業スタイル(川崎スタンダード)の統一

＝「授業における基本事項」(義務教育課学力向上推進室)、うるま市共通実践項目の確立

- ① 「めあて」「課題」「(自分・友だちの)考え」「まとめ」「ふり返り」を位置付けた構造的な板書と、板書と連動したノート指導による45分完結型の授業
- ② 自分で考える自力解決の時間や「学び合い」の時間を確保し、「めあて」に正対した「まとめ」があり、形成確認や「ふり返り」(メタ認知力の育成)を大切にした授業
- ③ 1時間完結型の授業の実施
 - 学習時間の確保(チャイムが鳴ったら黙想) ※ あげな中学校ブロック共通実践事項
 - 学習のめあての明確化(児童に分かりやすく提示)
 - 学習意欲の喚起(導入の工夫、机間指導の重視) ※机間指導は1時間に三回を基本とする。
 - 家庭学習との連動(復習を中心とした家庭学習の充実)
 - 学びの基盤を支える学習規律の統一指導(学習ルールや生活の約束の徹底)
 - 個に応じた指導の充実 少人数指導の工夫・改善(算数)

学習の基礎である読み・書き・計算の定着

- 個々の学習定着度や課題の分析と手立て、個別指導やプリントでの継続的なドリル
- 昼ドリル、補習指導の確実な実施と反省、改善
- サマースクール、スプリングスクール等、長期休業中の学習支援の充実
- 学習支援員による個に応じた指導の充実

家庭と連携した「生活リズムチェックカード」による望ましい生活習慣の確立
地域施設や人材等を活用した体験学習等、キャリア教育の推進によるキャリア形成の充実
並行読書や朝読書の推進、図書室の活用による読書指導の充実
学習意欲を高める教室環境の充実（学習状況や時期に応じて変化する掲示資料）

心豊かで思いやる子（徳）

豊かな心をはぐくむ教育活動 心豊か人格形成のために 自尊感情の獲得(自分大好き)
一進んであいさつができ、自らを律し、他者を思いやり、協調し合う子の育成—
「あいさつ・返事・後始末」（うるま市共通実践項目） 「ていねいな言葉が使える子」

「時を守り、場を清め、礼を正す」の具現化(行動を通して心を育てる)

時を守り …… 登校・下校、授業の開始、終了の時間厳守、
朝会や集会等への集合時間、提出締め切りの厳守
場を清め …… 自問清掃による学習環境整備（「心磨き」の実践の場）、
朝のボランティア活動等、師弟同行の環境整備、
片付けの徹底（使用責任を持つ）、明日の準備、整理整頓
礼を正す …… すすんで笑顔で元気なあいさつ、素直な返事「はい」、丁寧な言葉遣い、
感謝の言葉「ありがとう」、服装を正す、
履き物を揃える（靴箱のかかとを揃える）、
礼儀作法の習得（語先後礼、3秒礼、職員室への出入り等）、
傾聴姿勢（相手の目を見てしっかり聴く）、
言葉を大切にする（丁寧な言葉遣い、優しい言葉遣い）

学級・学年経営の充実（アセス等による児童の実態把握とその結果に基づく支援の充実）

- ① 好ましい人間関係を基盤として経営に努める。
- ② 学習・生活の約束事の徹底に努める。
学校全体のルール、学年に応じたルールを設定し、ルールとマナーを徹底させる。

道徳の教育の充実

- ① 考え、議論する「道徳の時間」の計画的な実施と評価の工夫、道徳教育推進教師を中心とした組織的・体系的な道徳教育の推進
- ② 自他の生命を尊重し正しい判断力と強い意志で行動できる子の育成
- ③ 人権教育の充実と思いやりの心や善悪の判断が正しくできる道徳的実践力の育成
- ④ 「私たちの道徳」を活用し、児童自身が自分の心の成長を自覚できるようにする。
- ⑤ 地域人材の活用、道徳授業を公開し、保護者・地域と連携し協力体制を確立する。
- ⑥ 基本的な生活習慣、日常生活における善悪の判断、思いやりの心などを、日々の生活の中で適宜指導する。
- ⑦ 体験に基づく道徳的実践力の育成を図る。
学校行事との関連指導 地域の人との交流活動
自然体験や奉仕活動等の体験活動の推進

自立と社会性を支援する特別支援教育の充実

- ① 特別な教育的ニーズがある児童に気付き、全職員の共通理解のもと支援体制を構築する。
（児童理解全体会、個別の支援会議の充実）
- ② 保護者と連携・協力していくシステムを確立する。
- ③ うるま市教育委員会等、関係機関と積極的に連携し、支援体制の充実を図る。

特別活動の充実

- ① 児童一人一人が主役になれる内容、活動を充実させ、自主的・実践的な態度を育てる。
- ② 児童が主体的に学校生活を営み、集団の一員であることを自覚し、よりよく生活しよう

とする自主的・自立的な生活態度を育てる。

話し合い活動（学級会）の充実 児童会活動・委員会活動の活性化

生徒指導の充実

- ① 児童理解を深め、自己指導力の育成を目指し、規律ある意欲的な生活態度を育てる。
教育活動全体の中で、「この時、この場で自分は何をなすべきか」を考えさせ、自己決定させ、実践させる。学校生活の中で自己決定の場を増やし、自己存在感を持たせる場を増やし、学級で受容的な雰囲気をつくる。
- ② 生徒指導についての共通理解を深め、校内の指導体制を確立する。
予防的生徒指導の充実 授業における「生徒指導の三機能」の確立
 - いじめの解消（速やかな対応）、不登校ゼロ、遅刻・欠席の減少（昨年度より減）
 - 児童理解全体会の充実（情報連携と行動連携、速やかな支援体制構築）
 - 日常的な教育相談以外に、教育相談週間を年2回実施する。
- ③ あいさつ運動の実施。成果と反省を生かす工夫をする。個々の児童に課題をしっかりと持たせて取り組ませる。
- ④ 保護者と連携した「早寝・早起き・朝ご飯の徹底」等、基本的な生活習慣の定着を図る。
「生活リズムチェックカード」の実施。成果と課題の分析、対応。
- ⑤ 心の相談員・学校支援員と連携を図り、日常的な相談活動を行う。
- ⑥ 家庭教育支援会議の充実（遅刻児童・不登校児童等の対応）

夢を育むキャリア教育の充実

人間関係形成能力の育成（自ら人と関わろうとする子の育成）

英語教育・国際理解教育の充実

A L TとのT T指導を充実させ、聞く・話すを中心としたコミュニケーション能力を育成する。

国際理解教育を通して、地域や自国の文化に誇りを持ち、他国の文化も理解しようとする態度を育成する。

健康でがんばる子（体）

心身の健康を育む教育活動

－基本的な生活習慣を身に付け、心身共に健康で活力に満ちた子の育成－

「一生懸命、汗して活動する子に！」

運動・スポーツに親しみ、健康の保持増進と基礎的な体力の向上を図る。

- ① 体育の授業の充実
 - 集団行動の徹底
 - 運動の楽しさや喜びを味わえる学習指導の展開
- ② 体力の向上 → 外遊び・縄跳び・早朝マラソン・徒歩登校の励行 体育的行事の充実
- ③ 家庭と連携した健康教育の推進（食育の推進や感染症の予防等）
 - 基本的6つの生活習慣の形成
（早寝、早起き、朝ご飯、テレビ視聴1時間以内、家庭学習、家庭読書）
 - 心の健康・薬物乱用防止・生活習慣の改善・食の指導・むし歯予防等
 - 学校保健委員会の充実（疾病予防と早期治療の推進、う歯治療勧告の推進）
- ④ 食育指導の充実
 - 学校給食に関する指導の充実（食物アレルギー対策）
 - 学校栄養士や地域人材を活用した食育指導の実施
- ⑤ 安全教育の徹底（危険予知能力・危機回避能力の育成）

- けがのない学校生活(けがの発生件数を昨年度以下、交通事故ゼロを目指す。)
- 登下校の安全指導の徹底、交通安全指導教室の実施、避難訓練・安全点検の実施・改善
- 地震・火災・津波等を設定した防災訓練や防災教育と危機管理体制の確立
- ⑥ 危機管理体制の確立、危機管理意識の向上
 - 危機管理マニュアル・安全マップの再確認
 - 施錠、解錠の徹底 地域と連携した防犯パトロール・街頭指導の実施

「信頼される学校」をめざして（積極的な情報公開と説明責任）

家庭・地域との連携を密にした教育活動

— 優しいつながり — 家庭・地域が学校のよき応援団となる

「家庭でしつけ、学校で教え、地域で育てる」教育の推進

- ① 教師と児童の信頼関係を深めるとともに、児童相互の好ましい人間関係を構築する。
- ② 保護者と緊密に連絡を取って意思疎通に努め、信頼関係を深める。
(家庭訪問、授業参観、個人面談、各種通信、電話やメモ等での連絡)
- ③ 開かれた学校づくり
 - 学校運営協議会(市民協働学校)の立ち上げと運営の充実
 - 「学校行事」「各種便り」、じんじんメール、Webページ等での積極的な情報発信
 - 授業参観の工夫による学校公開の推進
 - 関係機関や民生児童員等との連携。
 - 地域連携教諭を中心とした、地域人材・外部人材の積極的な活用
 - 地域住民との連携・協力・交流。
 - 自治会との連携強化 → あいさつ運動、校区危険箇所点検、安全マップ点検
学校行事への協力依頼や自治会行事への積極的な参加
- ④ 地域素材の教材化や地域の歴史や文化の探求
- ⑤ 自治会と連携した行事・学習指導の実施
- ⑥ 川崎幼稚園との連携
教員の合同研修、教育活動の相互参観を通して、互いの教育活動に理解を深め、連携の充実を図る。
教育課程(生活科、道徳、特別活動、学校行事)に位置付けて、合同行事、合同活動の実施による校種間交流を通して学び合う。
- ⑦ あげな中学校との連携
教員の合同研修、教育活動の相互参観を通して互いの教育活動に理解を深め、連携の充実を図る。あげな中ブロック学推や生徒指導連絡協議等を通して情報連携、行動連携を深める。
- ⑧ 教育公務員としての服務規律の遵守(服務違反ゼロ、不祥事ゼロ)
コンプライアンスリーダーを中心とした計画的なコンプライアンス研修の充実
 - 飲酒運転・酒気帯び運転根絶 ○ 交通安全の厳守 ○ 体罰防止
 - 個人情報の保護(児童名簿・成績管理・情報セキュリティー等)
 - 教育公務員としての厳正な勤務、社会生活
 - 配慮に欠けた指導がないように(安全面・説明責任)
 - 教育公務員にふさわしい言動、服装、身だしなみの徹底
 - 保護者・地域からの質問、苦情、要望等への迅速・的確な対応

事案が発生したらすぐに報告・連絡！ 気になることは悩まず相談！